



2020 年度

かけはし WAM 助成事業

R・Flag プロジェクト通信

No.12 ~ 19

NPO 法人成年後見センターかけはし

R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



NPO法人成年後見センターかけはし
代表理事 小川 肇

令和2年。新しい年明けと共に、3年目となる「WAM助成」の申請に向けてかけはしWAM助成事業部の空気は慌ただしくなっていました。

3年目へのチャレンジ

NPO法人成年後見センターかけはしは、2018年度・2019年度に続き、2020年度も、独立行政法人福祉医療機構(WAM)の助成を受け、事業を行うことになりました。

2年目は、これまでにご協力いただいた講師の方々との連携を強化し、障がいのある方たちへのサポート力向上の為に視察事業を取り入れた活動

として更に充実した3年目とするべく令和2年度の活動に向けスタッフで連日打合せを重ね、2020年1月末、祈るような思いで2020年度活動助成の申請書を提出しました。

そのさなか、今や世界を震撼させている新型コロナウイルスの感染拡大が関東中心に徐々に広が

第1回 かけはしWAM助成事業

やります！WAM事業

り始めました。当事業部もその影響を受け、『2019年度かけはしWAM助成事業成果報告会』を中止せざるを得ない状況となり、さらに事務所内の3密を避けるため分散出勤が実施され、現時点においても引続き行っておりません。

あなたの人生の伴走者です

そんな中、2019年度のWAM助成最終事業として、かけはしホームページのリニューアル作業を開始しました。県央福祉会福祉創造スクエア・すぶら協力のもと、かけはしのホームページは鮮やかで温かな雰囲気生まれ変わりました。(http://www.kakehashi-tomoni.org/)

このホームページリニューアル作業で、かけはしの理念『かけはしは、あなたの人生の伴走者です』を再認識し、スタッフ一同気を引き締めました。

朗報来たる！

4月1日、独立行政法人福祉医療機構(WAM)から届いたメール。そこには令和2年度助成に内定した団体が、北は北海道から南は鹿児島まで全133団体が載っていました。その中の神奈川県延べ10団体の中に、「NPO法人成年後見センターかけはし」の名前を見つけました。

3年目へのチャレンジが始まります！コロナ禍で今まで通りにはいかないう事もありますが、かけはしの理念を胸にスタッフ一同前向きに取り組みでまいりますので、どうか本年度も皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

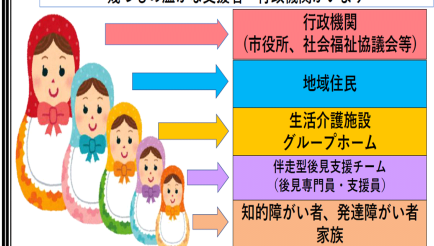
WAM助成事業Q&A

Q1...いつから研修会・講演会はスタートしますか？
A1...新型コロナウイルスの影響で遅れていますが、8月1日(土)の講演会から始めます。

Q2...新型コロナウイルスの対策は大丈夫ですか？
A2...新型コロナウィルス感染症対策専門家会議が提言した「3つの密」を避けるべく対策をします。

- ★ 具体的には、
- ① 会場の換気の徹底
- ② 例年50人定員でしたが、長テーブル脚に1名とし、定員を12名とする事で十分な身体的距離の確保
- ③ 非接触型体温計で入場者の体温測定実施
- ④ 会場の消毒の徹底
- ⑤ マスクの配布

マトリョーシカを思い浮かべてください
障がい者本人を中心に、
幾つもの温かな支援者・行政機関がいます



R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



NPO法人
成年後見センターかけはし
代表理事 小川 肇

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため4月7日に政府より発令された緊急事態宣言。発令中も日に日に増え続ける感染者数に未知なるウイルスの威力を感じ、不安な日々を誰もが過ごしてい

コロナ禍の中で

独立行政法人福祉医療機構(WAM)から、正式に「令和2年度助成決定通知書」が届きました。成年後見センターかけはしWAM助成事業部の活動は、いよいよ本格的に始動開始です！

たのではないのでしょうか。

自分が罹患者と想定して動く・・・となると、社

会の中で他者との身体的

距離をとらなければなり

ませんし、自分のものは

自分で管理・・・となると、

学校の教育現場でも、友

達が落とした消しゴムを

拾わないのが優しさ、と

教える時代になるそう

す。

グループホームや事業

所の職員、送迎スタッフ

の方々は、日々の業務に

加え、感染防止を常に考

第2回 かけはしWAM助成事業 8月の講演会に向けて

えなくてはならないでしょうし、又、障がいのある方たちも、今までとは違うこのような環境下で不安になり、落ち着かない状況も多々あるのではないのでしょうか。

第1弾講演会

5月終盤、新型コロナウイルス

ウィルス感染者数も下降

をたどり、緊急事態宣言

の解除が見えてきた頃、

独立行政法人福祉医療機

構(WAM)より、「令和

2年度助成決定通知書」

が届きました。

正式な助成が決定し、

かけはしWAM助成事業

部は晴れて事業活動スタ

トです。

最初の基調講演は、

8月1日(土)に行います。

・講師『小川肇』

・演題『少林寺拳法が

ら学ぶ自らの生き方につ

いて』

・時間『13時～14時半』

小川氏は、昨年度11月

の研修会にも登壇し、感

動的なお話をされました。

今回は更に深く講演して

くださいます。

選べる参加形態

- ①会場の定員は12～18名までとしますが、会場に來られない参加希望者には、当日の講演会・研修会をDVD作成し、冊子と共に郵送でお届けします。(※撮影許可のある講師の講演のみ)
- ②参加申込みの際に、「会場参加希望」or「DVD鑑賞希望」のどちらかをお知らせください。
- ③「DVD鑑賞希望」の方も参加費は発生します。DVD視聴後、参加費分の切手及びアンケートをお送りいただきます。

緊急事態宣言解除を受

け、早々に今年度の講演

会・研修会シラバスの見

直しを行い、お呼びする

講師、そして講演内容な

ども、今の社会情勢とリ

ンクするよう考えていま

す。

さらに、参加形態につ

いても打合せを重ね、現

時点では次の①～③のよ

うに実施することとしま

※今回の通信裏側ページに今年度の講演会・研修会スケジュールを掲載しました。現時点での暫定版ですが、是非、研修会参加のご予定立てにご活用ください。
詳しくは→www.kakehashi-tomoni.org/をご覧ください。

R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

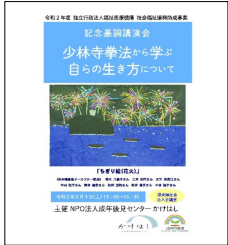
第3回 かけはしWAM助成事業

今を生きる

8月1日(土)、 県央福祉会法人会議室を会場に、小川肇氏による「少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について」の講演会を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの「令和2年度WAM助成講演会・研修会事業」の第一弾となる基調講演会となります。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、換気、最大参加人数の制限(18名まで)を行い、3密を避けた状態で実施しました。生活支援事業所 グループホームなどの福祉施設



県央福祉会利用者さん達の素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト



その語り口調に誰もが癒される
講師：小川 肇 氏

時間は前にしか進まない

「私は本当に不器用な人間なんです」

意外な言葉で小川氏の講演は始まりました。少林寺拳法少法師、その段位は神奈川県でただ一人の「正範士八段」。

また、横浜市立武道館(2020年7月開館)の建設を目指し武道10団体で結成された市立武道館建設推進協議会の会長も勤め上げている、まさに華々しい経歴をもつ小川氏のどこに不器用な要素があるのか？ 会場が、小川氏から出てくる次の言葉に耳を傾けました。

「だから、人より努力すること、人に負けないパワーをつけることを目指して生きてきました」

自身の歴史を裏付ける力強いそんな言葉を、実に穏やかに、にこやかに述べる小川氏。私たち参加者は、あっとい間に小川節に引き込まれていきました。

「時間は前にしか進みません。後ろには絶対戻らないんです。この不可逆的な法則を人間はなかなか受け入れられないんですよ」と笑う。

「そうなんです！しくじると八方塞がりになり、なんとかして時間を戻そう、どうしたら戻るのかなんて考えしまいます。しかし悲しいかな時間を戻す術がない・・・じゃあどうする？」

「今、今、今を生きる」「忘れる、逃げるな、楽しめ」「何かにいつも努力しろ」

少林寺拳法の教えであるこの「身心一如」。今現在の自分を精一杯生きる努力を、決して惜しまずに歩んできた小川氏の言葉だからこそ、私たちの心にこうして染みるのではないのでしょうか。

自らの生き方

あっとい間の1時間半でした。自身の病氣・苦悩・失敗、これらを人生のファンデーションと呼ぶ小川氏。

だからこそ克服した時の喜び、幸せがある、と。そして吉田兼好の言葉にあるように「善人のふりをして生きる。生き通せばそれは善人と同じなのだ。」を、日々胸に置き、最大限善人のふりをして生きると誓っている、という。「今日も一日善人であろうな！」と自分に語りかけ、唯一の今日を始めるのだそうです。

今を全力で生きる小川氏の生き方、精神、心意気に、参加者皆が大いに刺激を受けた講演会となりました。
今回の研修会は9月12日(土)・13日(日)同会場にて開催されます。

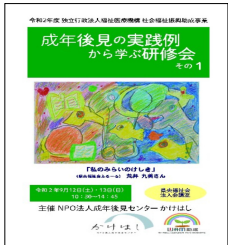
R ◆ Flag プロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



県央福祉会利用者さんの
素敵な絵を表紙にし
た冊子体のテキスト

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの「令和2年度WAM助成講演会・研修会事業」の第二弾となる二日間型の研修会となります。
当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、常時換気、最大参加人数の制限を行い、3密を避けた状態で実施しました。
生活支援事業所、グループホームなどの福祉施設職員、障がいのある子の親など延べ35名が参加しました。

9月12日(土)・13日(日)の2日間にわたり、県央福祉会法人会議室を会場に「成年後見の実践例から学ぶ研修会その1」を開催しました。

第4回 かけはしWAM助成事業

専門職のお話・充実の2日間

研修会1日目

12日午前の部は、昨年もお呼びした菊地哲也氏（法律事務所インテグリティイ弁護士 写真④⑤）。

これまでの後見活動の中で気付いたことや問題点を、丁寧にお話ししてくださいました。
「地域力」のお話では、社会の障壁を無くしていくことが、障がいをもつ方の適切な選択肢を増やすことに繋がる、そしてそれには地域自体に力が要る、ということ。そこに暮らす被後見人さんと共に、菊地氏がこの問題といつも向き合っていることがわかりました。



菊地 哲也 氏

菊地氏の魅力は、真摯に、謙虚に、温かく人と向き合うところだと感じます。「私は管理的になっていないか?」「うざい人になっていないか?」「いつも自分に問いか?」といった問いかけが、被後見人さんと常に対等なパートナーでありたいという菊地氏。今後の活動のお話もまたお聞きしたいです。

午後の部は、かけはし研修会といえばこの方! 小林真理子氏（山梨英和大学大学院教授写真⑥⑦）。今回のテーマは「ひきこもり」。本人へのアプローチを、多彩なパワーポイントで細かく明瞭に示してくださいました。

小林氏のお話はいつもの何かワクワクするような瞬間が訪れます。質疑応答を含めた総論で、「今、コロナ禍でゼミが全てリモートですが、い



小林 真理子 氏



濱野 真一 氏

わゆる「ひきこもり」の学生達が実に生き生きと参加してくるんです。あ、この子こんな事考えてたんだ!と驚かされる。今日の講義はいわゆる「10年前のひきこもり論」つまりその当時の社会概念「こもり論」が出てくるのでは? コロナ禍で急変化している社会の中で、そもそもひきこもりって問題なの?と言われる時代になってくるのでは? と、キラキラ輝く笑顔でお話してくださいました。

研修会2日目

13日午前の部は、こちら3年連続でお招きしている人気講師濱野真一氏（濱野真一税理士事務所 写真⑧⑨）。

「はた目には分からないけれど、人は皆、悩みを抱えて生きています」と冒頭で述べた濱野氏。その悩みの一つは「お金」という人も多いでしょう。そんなお金のお話を、実にわかりやすくテキパ

キと講義してください、聞いていこううちに我が家の家計を見直したくなってきました。しかし、お金があれば安心という訳ではなく、残す仕組み、管理する仕組み、確実にその行き場を与える遺言書のお話は、とても興味深いものでした。

午後の部の講師は、大場正昭氏（当法人副代表理事 写真⑩⑪）。次男の親族後見人になって5年半となる大場氏の、これまでの実践のお話でした。しかし、「実践のお話」と一言では表せないほどの、実に充実した資料と、その講演内容の濃さに驚きました。

親であると同時に、裁判所から個の生活と財産を守る為に任命された後見人でもある大場氏の、深い愛情とプロ意識に参加者皆が感動しました。



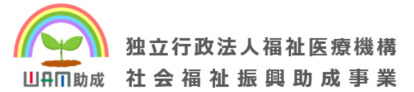
大場 正昭 氏

今回の研修会は10月10日（土）・11日（日）同会場にて開催されます。

R ◆ Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
 HP : http://www.kakehashi-tomonii.org/ E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
 TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



第5回 かけはし WAM 助成事業 本人の生活・生き方を支援する

10月10日(土)・11日(日)の2日間にわたり、
 県央福祉社会法人会議室を会場に「成年後見の実
 践例から学ぶ研修会その2」を開催しました。

本会は、NPO法人成人
 後見センターかけはし
 の令和2年度WAM助
 成講演会・研修会事業
 の第三弾となる二日間
 の研修会となります。
 当日は、新型コロナウイルス
 の為、会場の消毒、参
 加者の検温、常時換気
 を行い、3密を避けた状
 態で実施しました。
 台風14号の影響が懸念
 されましたが、延べ43名
 が参加し、盛況な二日間
 となりました。

研修会1日目

10日午前の部は、自身
 の法律家としての育成、
 法務上の人材育成、
 実務的な濃いお話を
 見られた、松村直道氏(認
 見の法務上の育成、
 法務上の人材育成、
 実務的な濃いお話を
 見られた、松村直道氏(認

定NPO法人東葛市市民後
 見人の理事長写真(⑤)。
 市役所見守り会(東葛市)
 の認定NPO法人東葛市
 市民後見人の会長の声
 があがり、参加者から
 まさに企業のような統
 率に組織しているのか
 と驚かされた。その
 まさに組織しているの
 があがり、参加者から
 まさに企業のような統
 率に組織しているのか
 と驚かされた。その



県央福祉社会利用者さんの
 素敵な絵を表紙にし
 た冊子のテキスト



松村直道氏

個人としての活動の意
 義、ボランティア活動の
 意義、法律行為の
 意義、法律行為の
 意義、法律行為の
 意義、法律行為の



浮貝明典氏

浮貝明典氏(認見人の活
 動の意義、法律行為の
 意義、法律行為の
 意義、法律行為の
 意義、法律行為の

午後3時の部は、浮貝明
 典氏(NPO法人PDDサ
 ポートセンター生活支
 援部長写真(⑤))。
 レベルも高い実践のお
 話を、聴きながら、サ
 ポート業務の実践のお
 話を、聴きながら、サ
 ポート業務の実践のお
 話を、聴きながら、サ

研修会2日目

11日午前の部は、弁護
 士2名の対談から始め
 ました。向川純平氏(横
 濱法律事務所写真⑤)と
 早田賢史氏(駿河台通
 り法律事務所写真⑤)。



向川純平氏(⑤)
 ×
 早田賢史氏(⑤)

午後3時の部は、人気講
 師日詰正文氏(のぞみの
 事業企画局研究部長
 写真⑤)。



日詰正文氏

本人が苦手な事、直面し
 た時に起こる問題行動は
 “この次どうしたらいい
 か”が分からなくて。避
 難訓練と同じですが、
 日詰氏は、全力的に支
 援する。私が支障も、
 基本を感じました。11
 月14日(土)のシン
 ポジウムの様子をお伝え
 します。

人は動くのか？それは違
 うんです。誰に教わりた
 いか？なんです。と目か
 らのお話をされました。
 支援の中で行き詰まりが
 あっても、自分はダメだ
 と思わなくていい。他の
 人ならいいかもしれない
 んですけど、「自分の話
 を分かってくれる人がい
 る」が分かる支援の、実
 践のお話をされました。
 また、人の生活が大事、
 という事を伝えるのが福
 祉。その為には「練習」
 が不可欠だと述べました。
 本人が苦手な事、直面し
 た時に起こる問題行動は
 “この次どうしたらいい
 か”が分からなくて。避
 難訓練と同じですが、
 日詰氏は、全力的に支
 援する。私が支障も、
 基本を感じました。11
 月14日(土)のシン
 ポジウムの様子をお伝え
 します。

R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



県央福祉会利用者さんの素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト

第6回 かけはしWAM助成事業 地域の支援活動を考える

11月14日(土)、県央福祉会法人会議室を会場に「地域連携シンポジウムその1」を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの「令和2年度WAM助成講演会・研修会事業」の第四弾、初のシンポジウムとなります。
当日は、新型コロナウイルスの為に、感染症拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、常時換気を行い実施しました。
爽やかな秋晴れの中、生活支援事業所、グループホームなどの福祉施設職員、学校職員、障がいのある子の親など延べ38名(会場外参加含む)が参加しました。

基調講演

午前の部の基調講演は、**志賀利一氏**(社会福祉法人横浜やまびこの里理事 写真⑤)。

40年近く障がい福祉に携わってきた志賀氏は、参加者の多くが「興味がある」と答えた「8050問題」について、豊富なデータと共に実に丁寧な講義をされました。「8050問題」とは、80代の親が50代の子どもの生活を支える、という日本の社会問題で、この背景にあるのは引きこもりの長期高齢化と言われ、障がいのある子とその親の、孤立した生活環境で生じた痛ましい事件などを振り返りました。時代は大きく変わっても、年老了親が、将来を悲観して障がいのある子を殺める事件は変わらない。これはごく稀な個人的な問題として考えていいか?と志賀氏は訴えます。



志賀利一氏

最近の障がい福祉は、生活の支援だけにフォーカスしていた以前とは違い、本人にとつての一番良い生活をどうしていくか、を重視したものになっている。
その為には、その人がどういう人生を辿ってきたいかの「ライフストーリーワーク」が不可欠であり、過去の情報を引き継ぎ、その人の人生を振り返ること、最適な支援ができる!これはのぞみの園での実践で気付いたことなんです、と締めくくりました。



集った豪華講師陣

シンポジウム

かけはし初の試みとなったシンポジウムは、午前の基調講演の講師、志賀氏の司会で始まり、**佐瀬睦夫氏**(社会福祉法人県央福祉会理事長)、**明石洋子氏**(社会福祉法人あおぞら共生会副理事長)、**勝田俊一氏**(認定NPO法人地域福祉を考える会副理事長)、**武居光氏**(社会福祉法人十愛療育会横浜地域福祉センター(港南生活支援部長))。この豪華キャストのパネル講演と、志賀氏の絶妙な司会で、午後の部の会場も大いに盛り上がりました。



佐瀬氏 明石氏

「本人を知って、理解して、支援する人を周りにどう作るか。まずは親が子の障がいを認める事、オープンにする事」と。**勝田氏**は、自身の法人の支援方針は、本人の夢や希望を実現する為に最大限の努力をする事だと述べ、身上保護を重視し、関係機関との連携も密に活動しているお話をされました。
武居氏は、アドボカシー(代弁)が発達しているイギリスの支援をPPTで示し、障がいはなく人間に着目する事、家族から社会に移す安心した回路を作る事、そして重要なのは、本人たちがどれだけ地域で楽しめるかです!と生き生きとお話されました。
スペシャルなパネリストが集ったシンポジウムは、「周りでどう支えるかを皆で考える時間を持つてました」と志賀氏が締めくくり、閉会しました。



勝田氏 武居氏

次回は12月12日(土)・13日(日)研修会の模様をお伝えします。

R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP: http://www.kakehashi-tomoni.org/ E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL: 046-244-5551 FAX: 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

第8回 かけはしWAM助成事業 広域における障がい者支援

1月16日(土)、県央福祉社会法人会議室を会場に「地域連携シンポジウムその2」を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの令和2年度WAM助成講演会・研修会事業の第六弾、今年度事業の最後を飾るシンポジウムとなります。

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温及び衣服消毒・手指消毒、常時換気を行い実施しました。

基調講演

第一部の基調講演は、大阪府高槻市に法人を構



県央福祉社会利用者さんの素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト



松上 利男 氏

える松上利男氏(社会福祉法人北摂杉の子会理事 長写真⑤)。

援サービスの開拓を先駆的に展開されてきたお話はまさに圧巻でした。「施設は、障がい者の権利を守る(とりで)でないだめ!我々の法人は何故存在するのか、何をすべきか?を考え、あくまでもニーズに向き合うこと。潜在的なニーズをどのように掘り起こしていくかの活動が重要なのだ」と。

シンポジウム

今年度2回目となるシンポジウムは、大和・横浜・東京・千葉のパネリストが集結しました。



佐瀬 氏 志賀 氏

司会は、急遽パネリストと兼任してくださった志賀利一氏(社会福祉法人横浜やまびこの里理事)。

パネリストは、志賀氏の他、次の3名。佐瀬睦夫氏(社会福祉法人県央福祉会理事長)、樋口美津子氏(社会福祉法人嬉泉めばえ学園園長)、松村直道氏(認定NPO法人東葛市民後見人の会理事長)。

第一部の松上氏の講演に共感し、とても良いお話が聴けたと述べた佐瀬氏。県央福祉会の広範囲に広がる事業所の支援活動は、地域連携が無いと難しい、と日々思う佐瀬氏は、超多忙な職員達をかい支援ができていますか?と問う。

志賀氏は、地域支援マネージャーという国の支援の下、高槻市における支援の取組みのお話をされました。「何もできない人、何もできない人」ではなく、「何ができないのか、どういった支援があればできるのか」を見つけて、利用者と事業所職員が一緒にやってみて考えてみる実践のお話をされました。



樋口 氏 松村 氏

就学前の子どもの施設であるめばえ学園の園長樋口氏のお話は、幼児教育に携わる方や、子を持つ親へのメッセージにも聴こえました。子どもが自分と周りを理解し自分を伝えようとしていけるように、また同時に、親が前向きに自信をもって子育てしていけるように、と。紙面では書ききれない沢山の愛に満ちた感動的な実践のお話をされました。

10月のエネルギーシユな講演でも好評を得た松村氏は、自身の法人の活動について、今回はその中身を詳しくお話されました。地域の中で行政が対応できないニーズが出てきた時、ネットワークづくり・広域連携が必要になってくる、とわかりやすく講演されました。

今回をもちまして、2018年度より行なわれてまいりました三年間にわたるWAM助成事業は終了いたしました。独立行政法人福祉医療機構(WAM)講師の皆様、参加者の皆様、心より感謝申し上げます。

かけはし代表理事 小川 肇